トップメッセージ

豊かな社会と持続可能な地球環境の実現をめざして、ステークホルダーの皆様と「新しい」を共創する

代表取締役社長／CEO
岡部　鉄也

世界トップクラスのカーケミカル製品でクルマ社会の安心・安全・快適を支える

当社は昭和24年（1949年）の創業以来、自動車の「走る」「止まる」という基本性能を常に安全に担保するエンジンクーラントやブレーキフルードなどカーケミカル製品をはじめ、産業用ウレタン車輪製品、防音材・制振材製品、バイオ製品（油脂分解微生物製剤）など、世界中に安心・安全・快適を提供するために、研究開発型メーカーとして、モノづくりに励んでまいりました。

トップメッセージ

創業時、最初につくったのが自動車のブレーキフルードです。戦後まもない頃、全国各地で、品質の劣るブレーキフルードが原因となるバスの事故が社会問題となっていました。

そこで当社では、「悲しい事故を無くしたい」という思いからブレーキフルードの研究開発に「不撓不屈」の精神で取り組み、創業から5年後に高性能ブレーキフルード「ゴールデンクルーザー」の発売にこぎ着けました。国内の自動車メーカーやバス会社への採用だけでなく、権威あるアメリカの試験機関からも認定を受け、海外市場への販売の糸口をつかむこととなりました。

ブレーキフルードと同時に開発に注力したのがエンジンクーラントで、国内においてはどんな厳寒地域での使用にも耐えうる高い品質が、やはり自動車メーカーなどから高く評価されました。

走行実験を含む当時の研究データをまとめた「CCIレポート」

そして、これらカーケミカル製品は、やがて海外へと進出していきました。きっかけとなったのは、国内の有力自動車メーカーが1970年代にアメリカに進出する際に、当社にも米国進出を願うお話がありました。そのご期待に応える形で1980年に現地法人を設立。初の海外進出を果たしました。その後、欧州、東南アジア、中国、南米などにも進出し、当社の強みであるグループ供給体制が構築され、海外においてもカーケミカル業界のリーディングカンパニーとなってまいりました。

そして、2023年8月、日本ケミカル工業（株）をグループ会社化しました。同社は、当社同様に高品質のエンジンクーラント製造技術のノウハウを有し、電動車両（EV）向け製品の開発にも早くから取り組んでいます。2024年4月には、カーケミカル製品とオイル製品の強固な国内営業網を持つ（株）ユーエスシーをグループ会社化しました。グループ会社との協働によって生まれるシナジーにどうかご期待ください。

産業用ウレタン車輪

「化学は世のため、人のため。」…多彩な技術と製品で社会の発展に貢献する

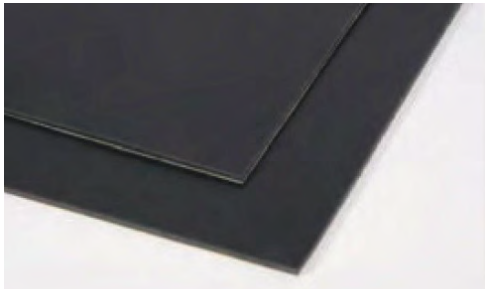
当社の歩みを樹木に例えると、カーケミカル事業を幹として世界に根ざして育った若木が、ウレタン車輪製品、防音・制振材製品、バイオ製品などに枝葉を広げ、多彩な分野で豊かな実りを社会にもたらしているといえます。

1970年から開始した産業タイヤ事業では、クレーンやフォークリフトに使われるウレタン車輪を製造し、OEMでトップシェアを誇っています。優れた耐久・耐熱性を持つ当社のウレタン車輪は、転がり抵抗が少ないのも大きな特長です。品質はもちろんのこと、SDGsへの貢献を視野に、省エネ、省電力製品の開発に取り組んでいます。

1992年から開始した住設・建材事業では、騒音や振動を抑える機能を持つ素材が、様々な分野で利用されています。これまでは主に建築関連資材や鉄道などの防音材・制振材

トップメッセージ

として活用されてきましたが、今後は、より静かな車室空間が求められる次世代モビリティにおいても、騒音を静かにするといった部分で、当社の防音・制振技術が活用されると考えています。



制振材

真のカスタマーフォーカスをめざして

当社は研究開発型メーカーとして発展を遂げてまいりましたが、当社製品をご利用いただくお客様に対して「今以上に、もっとお役に立ちたい」という思いが、その原動力となっているのは間違いありません。

そうしたお客様とのコミュニケーションを更に深めるべく、この度、組織を大改編しました。営業部隊から開発部隊に至るまで、お客様のニーズをしっかり捉えて製品開発に取り組む。つまりは「顧客第一（Customer Focus）」のもと、特に海外比率の高いカーケミカル事業において、お客様からの要求にスピード感のある対応ができるよう組織体制の強化を図りました。これによって、当社はより一丸となって顧客満足度の向上と強固な顧客との関係の構築に力を注いでまいります。

これからも失敗を恐れず、「顧客第一（Customer Focus）」の姿勢で、果敢に挑戦していきます。これまで、商売の実りにつながらなかった研究開発も少なくありませんが、やはり、あくなき「挑戦」を続ける姿勢、「トライ・アンド・エラー」をやり続けることが大事です。「継続は力なり」、これに尽きると思っています。

一方で品質管理体制については、とりわけ自動車業界においては、「万が一」のトラブルも許されません。なぜなら、１万回に１度のヒューマンエラー、システムの不具合であっても、それが大きな事故につながる恐れがあるからです。

従って、しっかりとしたリスクヘッジ（危険防護策）をはかり、起こりうるリスクをあらかじめ予測して万全の対策を講じる。様々なリスク対応できる体制を事前に備えておくことが必要です。そうしたガバナンスの構築、運用にも鋭意、努めてまいります。

世の中も、働く人も変わっていく中で、会社も変わっていかなければならない

さて、こうした企業活動を、この先、100年、200年と続けていこうと考えると、やはり、絶えず変化する社会課題に真摯に向き合い、スピード感をもって取り組む必要があります。

そのため、2022年4月には私が最高責任者となる「サステナビリティ推進委員会」を設置しました。

環境面では、製造工程における環境負荷の軽減施策で、KPI※を設定して達成状況を定点観測しながら、着実に成果を出せるよう取り組んでいます。

※KPI：重要業績評価指標

トップメッセージ

更には環境負荷低減に貢献できる技術開発にも注力しています。例えば、鉱物油を食べる微生物を用いて製品化することによって、原油流出事故などの際に海の浄化に役立てたり、土地の改良に使ったり、といった画期的な環境保全活動が期待できる研究テーマにも取り組んでいるところです。

社会面では人権尊重の取り組みを重要課題と位置づけ、人権方針のもと、人権研修や人権デュー・ディリジェンス（人権DD）の実施等、そして当社だけでなくサプライチェーンにおける取り組みも進めております。

100年企業をめざして企業理念の再構築へ

企業の持続可能性という点では、2022年度に「企業理念探究プロジェクト」を立ち上げました。「100年企業」をめざし、原点に立ち還って私たちのパーパス（存在意義）を経営層と社員で議論しながら、これまでの理念の想いを受け継ぎ、より分かりやすい表現に再構築しました。大事なのは、理念を新しい世代の人たちにつなげ、継続して行くことです。それを担う理念の伝道師のような人材の育成と組織・風土づくりを、2023年度に新たに立ち上げた「企業理念浸透プロジェクト」を通じてPDCAのサイクルを回し、スパイラルアップしていきたいと思います。理念を全従業員に浸透させる施策の一例として、一人ひとりが業務で注力する行動「My Action」を掲げ、社内に公表し、コミュニケーションの活性化や、自分ごと化するツールとして活用しています。その他様々な浸透活動を通じて、従業員一人ひとりが企業理念であるパーパス（存在意義）を実現し、お客様そして社会に貢献できる企業をめざしてまいります。

シーシーアイを育ててくれた地域に恩返ししたい

最後に、当社の地域貢献についてお話しします。グローバル企業にとって世界に視点を置くことは重要ですが、戦後の街に芽吹いた小さな町工場の時代から、当社をここまで育ててもらった岐阜という地域の活性化につながる応援をしたい。そんな想いから、私たちはできる限りの地域貢献をしています。

スポーツ分野では、プロサッカーチームの「FC岐阜」やプロバスケットボールチーム「岐阜スゥープス」に加え、「TOYOTA GAZOO Racing」の支援を通してモータースポーツの振興にも注力しています。

この他、未来を担う子どもたちの活動支援として、

シーシーアイカップ

©TOYOTA GAZOO Racing 2024

2020年からは「シーシーアイカップ岐阜県U-9」を毎年開催しています。子どもたちの健やかな心身の育成を願うイベントですが、毎回、会場では子どもたちの元気な笑顔が溢れています。

一方、学術研究の分野においては、研究開発に注力する企業として、新規事業の実現につながる新しい価値を若手研究者の方とともに生み出すことをめざし、そのために必要な技術を確立する研究、および基礎となる科学技術開発に関して助成を行っています。

これからもシーシーアイグループは「継続は力なり」、「新しい可能性に挑戦していく」、「熱意をもって変化し続ける」をキーワードに研究開発と事業活動に一層励み、ステークホルダーの皆様との共創によって、より豊かな社会と持続可能な地球環境の実現をめざしてまいります。